

ひとこと

山形南高OB合唱団が十周年を迎えることになったのはうれしい。

このコーラスは、東京でよく見る高度な技術をひけらかし、乙にとりすました団体などとちがって、聴衆との間に冷たい空気のカーテンがないのがいい。

いつか、やはり上京されたとき聴いた感じでは、やさしい曲を美しく楽しくうたっていたのが印象に残っているが、ひびきのきれいなことが、ひときわ注目されたものだ。

それはきっと佐々木基之先生が、指導の折にとりわけやかましく云われたのであろう。

近頃は、わが国でもコーラスばかりで、どこの学校でも、どんな職場でも、実によく合唱をやっているが、中にはコンクール目あてのものや、妙にプロ気どりのものなどあって、あまり感心しないものもある。かと思うと、一方では逆に、美しさに無頓着で、やたらとがなり立てているようなひどいものもある。

どちらも好ましくないのはいうまでもない。素人のコーラスの本当のよさは、むづかしい曲や大がかりな曲をむりさしてやるより、自分達に適ったやさしい曲を、美しくうたい、自分たちも楽しみ、聴くものにも喜びをあたえることだと思う。

ヨーロッパの人たち、殊にドイツやオーストリアの人たちはコーラスが大好きだ、休みの日には、仲間同志で山や野に出かけ、誰もが知っているような親しみある曲を、次々とたのしそうにうたい、あたりにいる人たちからよく喝采を浴びている。

山形南高OBのコーラスも、どこかそんなところがあるようにおもうのだが、どうだろうか。

こんどの記念演奏会も、特に肩の張った大曲を放せず、いつものように親しみやすい曲ばかりでプロが組まれ美しくたのしくうたってくれるようなので、大いに期待している。

宮沢継一
(音楽評論家)

山南OB十週年おめでとう。

先日、山形での発表会のテープを聴いて、大変なつかしく思いました。十年前に私も歌っていた曲が、昔に変わぬ新鮮さで、迫ってきました。

何十遍、何百遍歌っても、尚かつ、新らしい感動を覚えることは、最近の私共の生活をかえり見て、大変に尊いことと思います。これからも、佐々木・森山岡先生の指導のもとに、ハーモニーの火を燃やしつづけて下さい。

増田邦明
(山形南高OB合唱団出身)
(東京混声合唱団員)

美しいハーモニーのひびきは人の心を豊かにする。そして明日への活力を養う。

高校時代に味わった音感合唱のもつこの独特なハーモニーのひびきが忘れられず、なんとか保ち続け、発展させようと発足した私たちの合唱団も今年で丁度満十周年を迎えました。この間、苦しみも、悲しみもハーモニーに支えられ、それをのり越えて、定期的な発表会ももつことが出来るようになりました。今日第3回東京公演にいたりました。いつも私達のささえとなって下さった母校山形南高校の杉浦校長以下諸先生、直接指導をいただいた佐々木・森山岡先生、親身にお世話を下さった東海林家、そして何時も聴いて下さる皆様の温かい御声援と合唱界編集局の皆様の御好意に対して、心から感謝致します。

山形南高OB合唱団